

川崎の男女共同社会をすすめる会通信 No.193

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎&FAX 044-944-7872 ●発行日2018年11月1日
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>



2018年度男女共同参画協働事業

学生が市民と共に調べた川崎の保育状況の講座は、多くの人に参加していただき、無事に終了しました。初めての学生たちとのコラボは、すすめる会にとっても貴重な体験になりました。

専修大学経済学部 社会政策ゼミ5人の発表

江崎 麻衣さん・稲益 明寿香さん・伊藤 大晃さん・川崎 蘭丸さん・近藤 亮さんが分担して発表した「働く・食べる・遊ぶ ～3つの『保育の質』について～」は、「学生の視点が良かった」「保育の現場がよくわかりました」「学生と市民団体が連携した調査活動は、とても貴重な体験」「一つの大学のゼミで、ここまでの調査をやりとげたことに、敬意を評したい」などなど、アンケートに賞賛の声が寄せられました。

3人の女性議員も熱心に聞き、発言

石田和子さん（高津区） 木庭理香子さん（麻生区）

君嶋ちか子さん（県会議員 中原区）

すすめる会では、市議会各会派11人の女性議員と立候補を予定している数人の方へも参加を呼びかけていました。会場には3人の候補者の方の姿もありました。

多様な参加者／世代・職業・地域で活躍している男性

保育士・元保育士、子育て世代の男性、市民活動や地域で活躍している方々、様々な雇用状況の人など、これまでになく多様な参加者が次々に発言。学生たちが提起した問題を受けて、川崎の保育状況の課題や矛盾が明らかになりました。

2年前の「なぜ保育園足りないの」講座に続いて今回も、またもや宿題が出された形に…。

働く・食べる・遊ぶ
～3つの『保育の質』について～

兵頭ゼミナール

保育労働の問題点

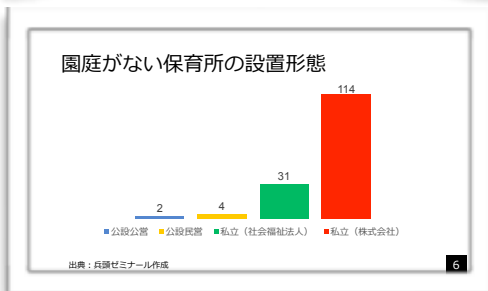
- ・職員が不足
- ・給与が低い
- ・職員同士の人間関係

実際に味見をしてみました！

- ・「松風焼き」
- ・「和風コールスロー」
- ・「けんちん汁」

の三品を試食

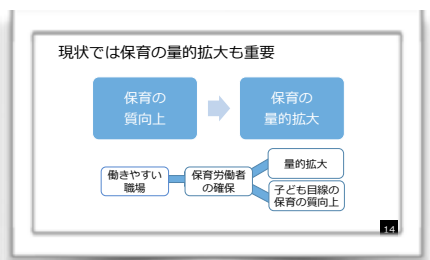
- ・洋食より和食中心
- ・他には納豆ご飯も
- ・大人が食べても美味しい！



問題を解決する為には

- ・「働く」 → 広範囲な賃金の底上げ
- ・「食べる」 → 自園調理を行うための環境整備
- ・「遊ぶ」 → 都市公園を活用して遊び場の確保

⇒保育の質が向上する



保育士さんの現場から見た、今、必要なこと

川岸卓哉さん（弁護士・川崎市保育問題交流会）



弁護士をしております。保護者的立場で、公立の保育園に子どもを預けています。保育園問題に関わるきっかけになったのは子どもが生まれる前ですが、株式会社立の保育園の園長さんが雇い止めにあうという事件があり労働事件として担当したことがきっかけです。川崎市は保育園の質より量ということで、質が後まわしになっているということで、呼びかけたのが川崎市保育問題交流会で2年ほど前です。

一番大切にしないといけないことは子どもの権利。幼少期の自我形成期にしっかりした環境で育てる。大人が頑張らないといけないことですし、子どもの最善の利益をどのように守るかということとをそれぞれが考えないといけない。基盤として保障するのが、保育労働者の労働環境です。保育労働にどんな問題があるかということに焦点を絞ってお話したいと思います。

1. 保育所職員の処遇

■賃金と労働条件 アンケートでは、年収200万円から300万円が34.4%、月収20万円以下が30%を越えます。時給では1200円以下が大多数です。保育労働の賃金はけっして高くは無という現状がわかります。

さらに残業があるかでは「毎日ある」「ときどきある」が多数を占めているが、残業代が完全に支給されているのは28.5%。休憩時間45分～1時間とれているのは44.6%。これは法律違反がまかり通っているということです。仕事にやりがいを感じるかでは、とても感じる36.2%、まあまあ感じる56.1%、非正規の方は13%でした。

時給1000円でも、フルタイムと仮定しても月額16万円に過ぎず、1200円としても20万円には満たず、生活できる賃金ではない。底上げが必要ではないかと思っています。

■勤続年数 公立では11年以上の長期勤続者が8割をこえます。社会福祉法人(私立)では、勤続年数7年以下の人が8割、株式会社立で

は9割を超え、勤続3年以内でも65%になります。

■働き続けたいか 定年まで続けたいは公立36.9%、株式会社立4.9%。

■年収 公立では500万円を超える人が6割、株式会社立では300万円が7割。

■「現在の職場で保育士の数は充分ですか」の質問では「少し足りない」「全く足りない」が6～7割くらいと共通しています。

保育園を運営する上で、基準通りやっけていても保育士が足りていないというのが実感です。

2 認可保育園の配置基準

日本の配置基準は国際的に見ても非常に低い。アンケートでは職員不足の問題を訴える回答が多数ありました。

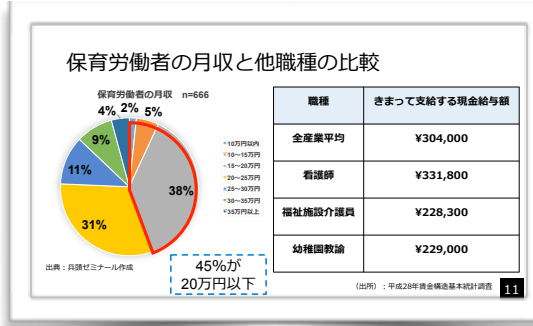
自治体が加算基準をして、なんとか休憩を取れるように努力しているが、根本的には国の怠慢であると思っています。その基準すら、規制緩和のなかで緩和していこうとしています。

今、何が必要か、要望を川崎市保育交流会としてまとめたものです。保育園職員の処遇改善、他産業と比較して月10万円も低い賃金水準を引き上げる。

公私格差も問題だと思っています。川崎市独自の補助制度を拡充する。賃金を時給1500円以上にする。認可保育園の配置基準、国が責任を放棄している。そこをしっかりと変えていかなければいけない。

川崎市独自の基準を設ける。保健師、看護師、栄養士の配置は、保育士の職員配置基準の枠外で独立させる。川崎市として国に対して最低基準の抜本的な見直しを要請していくのが大事です。

3 公立保育園の民営化
公立保育園をなくしていくのは間違っていると思います。





大学と市民の共同から政策つくりへ

兵頭淳史さん（専修大学経済学部教授）

普通学生のゼミでこまでの大規模なアンケート調査はお金も、まあ労力は若いから何とかかなるかもしれませんが、お金も時間もかかるので、学生の団体だけでは難しいです。

保育問題交流会、色々な力が合わさったネットワークのなかで作業をすることが出来ました。保育のゼミと世間では思われたようですが、保育のゼミではなく私が担当しているのは社会政策、労働問題で、社会的な関心のある問題を学生に選んでもらっています。

学生も私も保育問題では素人です。「都市公園の活用によって」というのは、私は最後まで反対でしたが学生を尊重しました。このような保育の調査はすでに様々なところで取り組まれています。今回の調査は、保育問題に関係している、または非常に関心のある個人がゆるやかなネットワークを組み、共同しておこなった調査活動です。

昨年調査し、今年川崎市に調査結果の報告書を出し、政策提言(要請)をしました。日本に於ける先駆的試みではないかと思えます。

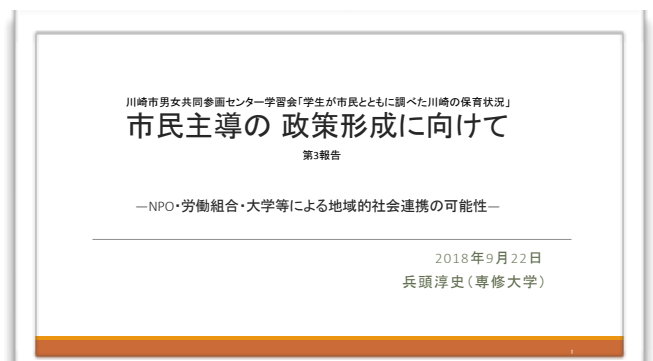
このような調査がどういう意義があるのかについて述べたいと思います。アメリカではRegional Power Building(RPB) -地域力をつける-は、1990年代から活発化してきた社会運動の方法です。地域レベルでの政策実現へ向けた動きで、日本で言うなら町内会組織とか、労働組合などが連携して、市民や労働組合員の生活の質を上げるという運動です。福祉国家制度の弱さ、労働運動の弱さなど、日本とアメリカはよく似ています。

例えば家族に支出する公的支出（社会保障）がGDPにしめる割合は日本・アメリカは低い。アメリカでは、シンク・アンド・アクト・タンク（大学の研究者や労働組合や、その他社会組織がお金を出しているような、また行動することも合わせてやる）や、レイバーセンター（研究者の組織であると同時に、労働者を実質的に教育していく組織でもある）や、非常に広範な色々なグループや個人を巻き込んでいき、大キャンペーンをやり、

政策が実現していきました。（例：ボルチモアの公契約条例制定、サンノゼの子ども健康保険設立）これに比べればささやかなものではありませんが、今回の交流会を中心として保育への取り組み、調査の取り組みと、政策提言はその一歩になるのではないかと。なっていけばいいなという話です。

これから何が必要か、政策提言というときに、それはわかりませんがお金がどうしてもないのでね…という反応がすぐ返ってきます。いやお金はあるでしょう、こういうふうになれば。そういうことが必要になってくる。財政やその他さまざまな制度の研究をしていかなければならない。それを研究するだけでなく、それを行動運動と結びつけていかなければならない。

アメリカのような十分な資金や研究者組織は、日本にはそれほどありません。アメリカでは大学や大きな組織がそのような役割をはたしています。日本の大学は財政力も、組織を形成する自由度もなかなかないが、政策を実現していくのは、最終的には大規模なキャンペーンです。シアトルの最低賃金の要求運動の時には、目抜き通りを埋めつくす大デモンストレーション、子どもも参加して楽しそうな、多くの人々が参加して、楽しげなキャンペーンが最後には政策を実現する。日本では良く知られた議会などへのロビー活動なども、もっともっと様々な個人も、一見関係ないような人々も、点在するグループも、お金も大規模に組織化していく。実現していく課題は多いですが、それに向けた一歩になればいいなと思えます。





みんなで話そうディスカッション 学生 多様な市民 講師 議員の熱い意見交換

●君嶋ちか子（県議）

基本的には園庭がある保育園がほしいと素直に思うのです。（ゼミで）都市公園法に注目したというのは、どうやって園庭がある保育園を増やしていったらいいんだろうということだと思のですが、これに取れんしていった過程を知りたい。

都市公園法の改定で保育所を増やすのも一時的な解決法にしかならないと思っています。私が今考えているのは法改正で基準の引き上げで元に戻す。都心では用地確保が難しいということで、ニーズを理由に、コンビニぐらいの大きさの保育園を建てているのが多い。そこをどうしていけばいいのか。

●石田和子（市議 高津区）

川崎の公立保育園はどんどん少なくなっていますが、園庭はすべてあります。

2016年から「子ども子育て法」が実施されて、それ以前は未認可園だったところも一定の基準を満たせば認可保育園になれます。公立の保育園、民間の認可保育園、小規模保育所が認可保育園の仲間入りをしました。「小規模保育園」の中には園庭がないところもあります。

●木庭理香子（市議 麻生区）

川崎市は全国の政令指定都市の中で一番人口増加率が高く、平均年齢も低く市長が保育待機児ゼロを掲げている。

一歳児の子たちが乳母車に乗って公園まで散歩に行く姿をよく見かけるが、認定保育園を作るに当たり、利用する公園を申請します。複数の保育園が利用する公園もある。先に行ったもの勝ち、後から行くとブランコや滑り台を使わず、その周りでしか遊べない。すごすごと引き上げて帰るといったような現状もある。

今日はみなさんが、私たちが議会で言い続けていることを確認してくれたと感じています。川崎市は保育園をどんどん作らないといけないという方向に動いています。毎年保育園の運営や整備費などが100億円単位で増え、今年度は660億円。こんな事業は川崎市の中では他にはありません。そのために他のものが削られているのも事実です。

認可保育園一人当たり166万円、かたや認定保育園86万円。防災用のヘルメットは認可保育園では

支給されるが、認定保育園では保護者が購入しなければならない。同じ川崎市民の子どもが通うのに、格差があっているのか。

労働環境が厳しく辞めざるを得ない。そういう環境のところにも助成して働く先生方への処遇の改善にもつなげ、同じような基準に引き上げていくことが重要だと考えています。今日の資料を活用させていただき前に進められるように努力していきます。

●保育士（横浜市）

都市公園に保育園を造っても解決しません。駅の近くに園庭のない園を法人がつくり、私はそこに異動になった。働いている者は園庭のない保育園はいやです。怪我をさせてはならないし、子どもの安全確保に気を使います。園庭の無い保育園は作ってはいけないと思います。

横浜市では、毎年新参の保育園が増えている。そこは非正規が多く、すぐ入れ替わります。認可の保育園でも園庭があっても狭いところもあります。

幼児は街の中に散歩に行くが、地域の方たちのやりとりが大事です。園児がボールや縄跳びを持って遊びに行く。近所の小さいお子さんがさわったりすると一緒に遊びますが、お母さんにそこで「気をつけてやってくださいね。帰るときに返していただければ大丈夫ですよ」と会話しますが、若い保育士はなかなかできません。お母さんも、遠慮して帰る人もいる。

小規模の保育園が増えて乳児さんが行く。その子が幼児になると幼児の受け皿がないから、規制緩和して、小規模園の中に幼児を増やしていく。一方、若い保育士はどんどん辞めている。このような現状を若い保育士に残していいのか？

赤ちゃん連れの保育園見学が一日20組ぐらいあるが、保護者の方はこの状況をあまり知らない。

こういう生々しい実態を知っていただきたい。行政に訴える機会は年1度ほどしかないが、毎週でも駅頭で訴えたいくらいです。

●石田和子（市議 高津区）

園庭のない保育園が増えているという問題ですが、民間保育園を整備する時、公有地を活用して作る保育園と、民有地を活用して作る保育園があります。もう一つが民間事業者活用型で作る保育所の整備で

す。これは事業者が市役所に相談して一定の条件を全部クリアして作る方法です。市の定員増の6割から7割を川崎市は民間事業者活用型で整備すると言っています。昨年度民間事業者活用型で作った保育園の定員は18箇所1020人、園庭のあるのはたった7箇所。民間事業者が手をあげるのを躊躇して5次募集までした年があった。少し補助額を少し増やした。今年度は民間型活用で作るのが73%、1350人分。公有地活用、民有地活用を議会で言っています。

◆男性(宮前区)

誰がネックで駅近に園庭ができないの。誰がその土地持っているの。そこに話しに行ったの。持っている人の所に話しに行って何とかありませんか。困っていますということに対して、取り組む姿勢が必要だと思っています。株式会社の社長、経営者に利益をあげないというのも有るでしょうが、利益と公園とどっちがどうか…お互い話し合っ、解決して行かなければと、最近思っています。

◆奥出(麻生区)

スライドにあった杉の子保育園に3歳の娘を預けています。親になるのに二重の不安があるなと思います。待機児になるかもしれない、入れたとしてもそこが安全な保育園であるのかどうか。

私の場合は、いい保育園を探して転居してそこに入れました。この園は全国保育団体合同研究会に毎年職員が参加して、父母にも呼びかけ、私も昨年参加しました。

入園できないことが自己責任とか、子どもへの虐待になってしまうとか、引越さなくても入園できる環境を行政の責任としてやってもらいたい。今日市議員さんも参加されているのでお願いしたい。

●梅垣(多摩区)

学生と市民が調べたという事に非常に興味があった。調査したり研究することに、若い人が参加して現場の人たちと共に考えるということが大事だと思っています。何故、これを調べようと思ったのか、学生の皆さんの動機になったことを知りたい。

私は、今31才から25歳の3人の子を保育園に入れて働いてきた。保育園に子どもを入れたことが、保育園には入れたことが、この子たちの人生にとって本当に素晴らしいことだったと思っています。(保育園は)子どもの発達、また保育者の発達にもすごく大事なことで、保育の喜び「子どもってこんなに素晴らしいです」という保育の喜びが沢山あったと思うのです。どんな保育園でなければいけないか、何が大事で、何を私たちは守るのかということが共有されるし、パワーも出てくると思います。研究するものも運動するものもその素晴らしさを知っていないとできないのではないかと思います。

♠学生1

公園法を調べていた。都内の公園へ行って実際に調べたら子どもたちも元気に遊んでいたり、見学に来ている親御さんたちもここなら大丈夫かなという顔だったので、先生に反対意見を言われるまでは問題意識はなかった。ここで反対意見を聞いたことは良かったです。

♠学生2

労働というテーマで学んでみたいなと思っていたが、ゼミで保育をやっていた。待機児については耳にするぐらいだった。保育から労働を考えるとというのが、当時の私にとっては新鮮なことだった。

皆さんの話を聞き、保育士は子どもの成長にとってとっても大事な職業なんだと痛感した。保育士の職業が軽く見られてはいけないなと思った。

♠学生3

上の世代から保育問題やっいて、待機児問題など関心があった。私は子どもが大好きで、交流会に参加して実際に働く方から、園庭がないから子どもが公園で遊ぶことなど聞きました。

アンケートも「上司から書くなと言われたが、私たちは問題があると思っているので、是非活用してください」と現場の保育士さんたちから言われた。現場の人たちが苦しい思いをして働いているということ学べた。将来利用する立場になったとき、安全な保育になっていて欲しいなと思ってこの研究をすすめていました。

♠学生4

労働関係を勉強したくてこのゼミに入った。保育には全然関心なくて…。将来、私も子どもを持ったらこれは取り組んでいかなければなと思った。

園庭がない保育園へ行き、そこで私も子どもたちと手をつないで公園まで一緒に行った。30分一緒に遊んで、「もう帰るの?」と子どもに言われた時、ごめんねとしか言えなくて、もっと遊びたいなという声が子どもからあり、このような声がでないような環境を作って行かなければなと思いました。

♠学生5

保育問題はまだ身近な問題ではないなと感じていた。自分の叔母も保育士で、フルタイムで働いていたが、腰を痛めて短時間しか働けなくなりました。一番問題だと感じたのは、続けたいのに続けられないこと。「やりがいがある」とアンケートの中で多数の方が答えているのに「もう辞めたい」だったり、「あと何年後かに辞めます」などの答えがあり、そこを変えていければなと思いました。

保育の質を考えると、子ども目線の保育が重要だと思います。子どものためにできることを考えていくことで、保育士の



方の働きやすい環境もつくれるのではないかと考えています。

● やすい（多摩区）保育士

600億円の保育予算が組まれているということですが、公立保育園を減らしていることが、力の無い子どもや、保育士の働き方などにしわよせがいつています。川崎市にその責任があると、今日の討議のなかで感じています。

私のところは園庭はあるのですが、120名定員なので多くの子どもが外に散歩に行きます。公園で遊びたい時は早めに出かけて、譲り合っています。公園にはベビーカーに入れられて、次から次へと多くの子が入ってきます。保育士さんや子どもの表情を見ていると、熱があったり、怪我をしていたりしても気付くのかな…と、とても危険な状態で保育をしているのを感じます。散歩に行くと心を痛めて帰ってくるような状況です。

こういう話し合いをしなくてもすむような保育環境を整えてほしい。監査の時だけ取り繕うのではない川崎市のチェック機能がちゃんとできているのか、毎回、気になっています。

● 女性（非正規・公立保育園）

正規の保育士として働いていたが、体調をくずして辞めました。やりがいを感じて働けるのは保育士しかないと短時間の仕事を始めました。

非正規で10年働いているが、時給は20円あがっただけ、川崎市はお金をどこに使っているのかなと思う。私たち非正規は組合がないので、声をあげて伝える場所がない。愚痴を言ったり、こうだったらいいのにねという話になりがちです。

「まだ庭があつてましじゃない」は、おかしな話です。子どもたちは庭があつて、のびのびと遊べて、いっぱい可愛がられ愛されて育っていく…子どもが大事にされる環境にならないとおかしいです。

今、保育園は開所時間がどんどん伸びています。帰りが6時だったのが、7時、8時、10時になって、昼・夜食べて帰ったら寝るだけというのは、働く親も保育士もイタチごっこで長時間労働になっている。子どもの発達にどうなのか。親を支えることは大事だけど、お家に帰ってゆったりできることも大事だし、複雑な想いがあります。

● 吉葉（中原区）元保育士

0歳から子どもは成長しています。そこに何が必要かといったら、栄養も必要ですけど、人と人との関係で言葉になって成長につながっていく。環境が悪かったらどんなに成長しようとしてもそこで留まったり後退したりします。子どもはいい環境で育てられる権利があります。

私が保育園に入ったときは遊具はありませんでしたが、遊べる環境はありました。外へ出て行って遊

ぶのが私たちの保育でした。遊具はだんだんそろってきましてけど、人間と人間の関係がだんだん崩れてきたように思います。自由に遊ぶ空間も減ってきました。保育園の空間が少なくなったら子どもはどう成長していけばいいのでしょうか。誰の責任になるのでしょうか。これからの保育を考えて欲しい。

◆ 男性（保育のことは素人です）

保育は社会問題、社会構造の中での一つとしてとらえる必要があると思います。こんな保育園作ってもしょうがない、でもなんでもいいから子どもを預かってくれる場所がないと働きにいけない。

親の労働条件の問題、育休とか保育のため休暇をとると、会社の中でレールから外れる。諸々の条件を変えていくということが片方にあり、また個別問題として保育の問題がある。

公園をつぶしてというのは話にならない。マイナスになり保育園作ってもプラスマイナスゼロ。子どものことを考えるとむしろマイナスだと思います。

■ 川岸（保育問題交流会・弁護士）

今日はありがとうございます。父として参加している面もあります。労働人口が足りないから女性の労働力を確保するという発想で、保育所を作るという国の政策があります。その中で、とにかく預かってもらえればいいという保育所も作られて、今の保育状況が生まれています。労働政策のあり方などに意見を言う必要があります。これからも皆さんと、新しい保育を作っていくような市民の活動を広げたいと思っていますのでよろしくお願いします。

■ 兵頭（専修大学教授）

今日はありがとうございます。公園の問題ですが、（学生が）都市公園を保育所に活用するという政策を熱心に調べてくれて、私自身は都市公園の規制緩和という政策自体に懐疑的だったので、やりとりをしつつやっぱりこれを盛り込みたいということで、最終的には尊重しました。

都市公園法の改正については、これは有効な手段でオルナティブではないが、調査を発表し、調査に協力していただいた保育士さんに報告会を行った時に、議員さんにも来ていただいて、活用できる公有地があるんだというお話をいただいた。なるほどそういう選択肢があることを知り、これをきっかけに色々な場に参加しました。まだ眠っていて活用できる公有地がある、日本の公園は先進国と比較すると人口あたり一番狭い、それを待機児童問題大変なんでしょう、がまんしなさいよ、こういうことに押し込まれている。これは非常に問題だと新たに問題の所在にも気付かされました。いろんな方とコラボしながら学んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



感想特集 アンケートより

講座参加 37名 (男性7名・学生5名)
回答数 19名 年代 20～80代
講座内容・講師▷全ての方から「良かった・まあ良かった」と答えていただきました。

兵頭ゼミの学生たちから…

▶自分たちが研究した内容を多くの人たちに聴いて頂き、学生が頑張る姿から、今後の保育問題を解決する力が与えられたら良いと考えました。まだまだ保育環境は厳しいものがあり、大人が大変なら子どもはもっと大変で危ない状況になると思います。今後とも環境整備をすすめてほしいです。
(20代 東京都)

▶発表、つかれました。
(20代 さいたま市)

▶今回 発表者として参加し研究について様々な意見をお聞きできました。私自身、「都市公園法の改正」部分が対策として正しいかどうか、研究していた当時も疑問を感じていたので、今回の話をきいて新しい視点から物事を考えられることができました。また機会があれば参加させていただきます。
(20代 多摩区)

議員さんからも…

■ありがとうございました。学生さんの【はたらく・たべる・遊ぶ】の視点とても良かったと思います。保育士の処遇改善についても、もう少しお話しできるとよかったですね。議会の取り組みについても報告できる事もありましたが(皆さんの多くの声を聞きたかったので)又、何かの機会と思いました。(市議会議員 石田和子 70代)

■今日はとても有益な時間をすごさせていただきました。もっと、今の川崎市の保育政策の現状について知っていただき、ご意見を伺いたかったです。次回を楽しみにしております。

今後・・・うちの会派には、保育問題に熱心に取り組む議員がたくさんいるので、意見交換の場を設けていただきたいです。

(市議会議員 木庭理香子 50代)

●とても良かったです。学生の発言に将来への希望を感じました。(30代 麻生区 奥出智行)

●今日はありがとうございました。学生さんの発表も話もとてもよかったです。待機児童問題だけでなく、保育の質(園庭、給食、職員の働き方)も大きくとりあげるべき事だと思います。
(40代 高津区 小堀)

●若い学生さんが保育について考える姿はとても頼もしいし、良い企画だと思います。色々な立場の人の意見が聞けて良かったです。ありがとうございました。
(50代 多摩区)

●学生と市民団体等が連携した調査活動は、とても貴重な経験かと思えます。保育の深刻な状況を変えるために、引き続き取り組みをお願いと共に、多くの方が自らの事として主体的に取り組んでいきたいと思えます。
(60代 中原区)

●いろいろな立場からの意見きけて、参考になりました。学生さんのとりくみはとても励まされました。子どもの権利がしっかり守られる方向で自分なりに努力していきたいと思えます。
(60代 川崎区)

●大学・学生(社会調査)と市民運動、地域政策、策定を結び付けた取り組みに大きな関心を持って参加しました。興味深く拝聴しました。現行政策と明らかになった現況との関連もぜひ検討を。他分野との類似や比較もぜひ(今回は無理ですが)

今後の希望・・・保育現場の方の方、保育実践の報告が、保育政策を考える上で大切ではないでしょうか。社会調査にとりくむ学生さんたちもナラティブな手法(手法とかではないですね。人と人が育つ保育の本質にせまる点で、もどかしく感じたので社会調査の前提となる深い動機につながる必要という意味で現場の人、子どもにふれること)も検討されては。
(50代 多摩区)

●ひとつの大学生のゼミで、ここまでの調査をやりとげたことに、まず敬意を表したい。園庭のない保育園で働くものとして、福祉保育の労働組合の役員として、更に市民として、これから人生の終末にむかっていく者としては、若い人にひどい世の中を残していくのは嫌だなあと日々思っていた。社会政策、労働問題の切り口として世情に疎い保育士たちへの力をお貸し願いたい。先生、弁護士さん、学生のみなさん、ありがとう。
(50代 横浜市)

- ◆意見交換を自由にやる時間が取れてよかった。
(30代 中原区 川岸)
- ◆保育園をめぐる問題もさることながら、市民が政策形成をリードしていくことの重要性を知り、希望を感じました。自分の立場でできることを考えたいと思いました。(60代 高津区)
- ◆保育の現状がよくわかりました。特に東京の保育園が足りない問題は、親の働き方、長時間保育の他に東京一極集中で人が集中しすぎていることも原因のひとつだと思います。(40代 宮前区)
- ◆保育現場の切実な声が聞けて、有意義な時間になりました。今後・・今後も参加します。(今回はじめて) (40代 中原区)
- ◆経営者側との意見交換会も必要と思う。(保育園用地の問題) (70代 宮前区 山本太三雄)
- ◆自分の子育ての時代は個人的にも公的な保育園に難なく入れた。当時から希望した保育園には公務員や市職の人が第1に入れる等言われていた。保育の質より、とにかく保育してもらいたい人がどんどん増えてきている今、保育を考える時、保育だけでなく、預ける人たちの労働条件や、働く

人たちの社会条件等に、貧困の問題があると思う。その中で学生さんたちが、問題意識を年々高めてレポートをしている姿がすばらしいと思いました。(70代 多摩区)


◆学生さんの研究、弁護士さん、いろんな職種の方の話を聞く機会があり、一市民として、保育士として、勉強になりました。

子どもが大事にされる、次の世代に引き渡す大人の責任を持つことに川崎市が動いているのか？国も同じ！！

今後：もっと多くの人に参加できると良いと思う。(50代 高津区)

公園利用の問題点

- ・毎日外遊びを実施できない
- ・移動による遊び時間の減少
- ・園児1人でも体調が悪い場合、外遊びは中止に
- ・他園との遊び場の重複



11

■女性ニュース

ノーベル平和賞

紛争下の性暴力根絶目指す二人に

10月5日にノーベル平和賞委員会は、今年を受賞者を発表した。紛争下の性暴力根絶にとりくむ、イラクの人権活動家ナディア・ムラドさん(25)とコンゴの医師デニ・ムクウエゲさんの2人。

「#me Too」(私も)運動で性被害の告発が広がる中「戦争や紛争の武器として性暴力を撲滅するための努力」が2人の受賞の理由。若いムラドさんの「声をあげる勇氣」が評価された。

1993年の世界人権会議で「女性に対する暴力は人権侵害」と国際文書に明記され、2008年国連安全保障理事会も「性暴力は戦争犯罪とする」決議を上げました。



■これからの活動

- 10月30日(火) ワークルールセミナー第6回
てくのかわさき 19:00～
- 11月12日(月) 幹事会14:00～ すくらむ21
- 11月16日(金) 労働街頭相談 溝口駅19:00～
- 2019年2月日(土) ごえん楽市
10:00～16:00 市民活動センター 展示参加

■活動日誌

- 9月3日 通信印刷・発送
- 9月8日(土) すくらむ21協働事業団体交流会
13:30 於 すくらむ21
15:40 幹事会 すくらむ21
- 9月11日(火) すくらむ21インターシップ学生
ヒアリング すすめる会の団体活動紹介
- 9月22日(土) すくらむ21協働事業
「学生が市民と共に調べた川崎の保育状況」
13:30～16:00 すくらむ21 多目的室
- 9月25日(火) ワークルールセミナー参加
てくのかわさき 19:00～
- 10月16日(火) 幹事会 14:00～すくらむ21